

NDS環境だより Vol.17

※『環境だより』とは、大阪エヌデーエスが環境への取り組みの一環として、社外の環境について好影響を及ぼす動きを展開することを目的とし、社員、パートナーの皆様のご家族向けに作成したパンフレットです。

今回のテーマ：
「SDGs」

2018年に大阪エヌデーエスが創立25周年を迎えた中、社長平山より「会社の今後5年、10年の方向性を考える上で、『SDGs』は重要な指針のひとつとなる」という話がありました。『SDGs』が会社の方向性にどのように関わるのか、EMSの観点から整理してみました。

『SDGs』って？

『SDGs（エスディーゼーズ）』とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年9月の国連サミットの中で国連加盟193カ国が2016年から2030年までに達成するために掲げた国際社会共通の目標です。環境、経済、社会の課題が総合的に含まれた、持続可能な世界を実現するための17の大きな目標（ゴール）とそれらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。採択から2年以上が経過し、既に、国連や国レベルだけでなく、企業や自治体、市民社会、大学など多様なセクターが持続可能な社会という共通のゴールに向けてスタートを切っています。（詳しくは外務省HPで）
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

『SDGs』と大阪エヌデーエスのEMS

『SDGs』の17のゴールの中に、環境に関わるものがいくつかあります。大阪エヌデーエスのEMS活動とも関連づけることが出来ます。

大阪エヌデーエス

消費電力を把握し、昼休み・定時後の必要の無い照明を消す

ペーパーレス、資料作成を工夫し、コピー用紙を削減

グリーン購入により物品調達

ゴミを作らない努力と廃棄物、リサイクルの分別

マイecoプランの実践

SDGs

7. エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12. つくる責任
つかう責任

13. 気候変動に
具体的な対策を

15. 緑の豊かさを守ろう

EMS活動だけでなく、我々はソフトウェアで社会に貢献する企業なので、本業の成果からも17のゴールに貢献できることがたくさんあります。『SDGs』は、事業とゴールを関連付けるだけではなく、優先課題を設定し、PDCAを回しながらゴールを達成することが必要です。大阪エヌデーエスとしても、『SDGs』とどのように向き合っていくかが、これからの課題だと思っています。



EMSジャーナルのコラム紹介

毎月1回発行される社内メールマガジンの『EMSジャーナル』では、社員が持ち回りで寄稿するコラム欄があり、環境に関連するさまざまな話題が掲載されます。そんな『EMSジャーナル』のコラムを、いくつか紹介します。

EMSジャーナル No. 160 18.12.25発行

加湿は、体調管理と省エネの面で一石二鳥
～ from 7Gr. (K. Sさん執筆)

タイトルは「加湿が省エネに？」という参考記事の一文ですが、興味を引かれたので、エコにも役立つ加湿について取りあげてみます。

人は湿度が高い時は暖かく感じ、乾燥していると寒く感じる傾向があり冬は湿度を上げると暖房の設定温度を下げても快適な環境を保つことができるということです。空気が乾燥することで、体から蒸発する水分量が増えるため、暖房をつけても体感温度は低くなり、暖房の温度だけを高く設定しても暖かさを感じにくくなるらしいのです。

湿度を上げる方法については、加湿器不要の対策から、実践できそうなものを拾ってみました。

- ◆洗濯物の部屋干し
- ◆水を入れたコップを置く
- ◆水拭き掃除をする
- ◆観葉植物を置く
- ◆濡れタオルを下げる、または振り回す
- ◆エコ加湿器を手創りする（コーヒーフィルタを蛇腹に折って水に差す…）
- ◆お風呂の扉を開けておく
- ◆霧吹きを使う
- ◆やかん、電気ケトルを使う
- ◆部屋で鍋物をする

人が快適に過ごせる湿度は、40～60%が目安のようです。40%以下だと喉の粘膜が乾燥し、免疫力が低下、そしてインフルエンザなどのウイルスが居座りやすい環境になり、60%以上になると、結露やダニやカビの発生が懸念されます。

体調管理と暖房効率もよくなる、ちょっとしたエコにご自宅の湿度対策、いかがでしょうか？

（参考元：北海道ガス エコライフのすすめ）



毎年1月になるとインフルエンザの流行がニュースになります。予防にはうがい、手洗いが第一と言われていますが、加湿対策も有効なんですね。体調管理とecoは密接な関係ですね。



画面の輝度を下げよう
～ from 5Gr. (A. Hさん執筆)

仕事柄、皆さんはPCの画面を見る機会が多いと思います。そこで、PCの輝度を下げることがオススメです。PCの輝度を下げると3点のメリットがあります。



1. 疲れ目対策になる
 2. 電気代が節約できる
 3. 省エネで環境にやさしい
1. 「疲れ目対策になる」
画面の明るさは疲れ目の大きな原因の1つなのですが、輝度を下げることによって目の疲労を軽減することができます。とくに長時間画面を見るような場合には、輝度を下げると下げないのでは疲労度に大きな差が現れます。
 2. 「電気代が節約できる」
液晶画面が使用する電力の大部分は、画面を明るくするために使われています。画面の輝度を下げると画面の明るさを抑えることで、4割もの省電力化になる場合もあります。
 3. 「省エネで環境にやさしい」
先にもあげましたが、輝度を下げるとは節電になります。余計な電気の使用を抑えることで、電気を作るためのCO2の発生を抑えることができます。

以上、画面の輝度を下げるメリットを挙げました。一度、暗くなりすぎない程度に画面の輝度を下げてください。

沖縄での環境保全活動
～ from 4Gr. (Y. Yさん執筆)



今年の社員旅行は沖縄が予定されています。沖縄ではどのような環境保全活動が行われているのか調査したため、その一つである「環境保全活動支援エコクーポン事業」について紹介します。

「環境保全活動支援エコクーポン事業」では、海岸清掃、赤土流出抑制、希少動植物の保護など、本事業の推進において効果的であると認められる環境保全活動への参加を通して、一人でも多くの方々に自然環境の大切さに気付いて頂くきっかけとなるよう、活動参加者への特典としてエコクーポンを提供しています。このエコクーポンは、美ら海水族館の水族館チケットとして利用できるということです。

活動への参加は、個人ではできないため、旅行中の参加は難しいですが、不要なゴミを増やさないことはできます。旅行先ではマナーを守り、より心地よい、楽しい時間を過ごせるようにしましょう。



東京五輪における脱炭素計画
～ from 11Gr. (R. Sさん執筆)



平昌での冬季五輪が閉会し、そろそろ2ヶ月となります。皆様はどのように楽しまれたでしょうか？私は、スピードスケート女子団体パシュートが非常に記憶に残っています。

2020年7月24日から開催される東京五輪も楽しみにしています。その五輪の準備では、競技会場など必要なインフラの整備によって、多くの二酸化炭素が排出されることとなります。そのため、近年では環境に配慮することが当然となっています。そして、東京五輪では過去最高の持続可能な大会を目指すため、地球温暖化対策は大きな柱の一つに設定して、街づくり・持続可能性委員会の脱炭素ワーキンググループが活動しています。そうして、今年の1月に東京五輪のCO2見込み排出量が発表されました。それによると特段の対策を行わなかった場合の算定値(BAU)は、2020年東京五輪：293万トン ※一般家庭60万世帯の年間排出量に相当する量

過去大会では、
2016年リオ五輪 : 356万トン
2012年ロンドン五輪 : 345万トン ※実績は、330万トン
となるようです。ちなみに、参考値として
2015年東京都 : 1,227万トン

ここから、様々な対策によって、更なる削減が行われることとなります。たとえば、
・会場における、太陽光、太陽熱、地中熱の再生可能エネルギー設備の導入
・再生可能エネルギーの最大限の利用(目標：電力のグリーン化率100%)
・水素を生かして環境負荷の低い社会の実現
等となります。

東京五輪にどのような技術が導入されるか注目していきたいと思います。

仕事でパソコン、これは必須アイテムです。ほとんど一日中パソコン作業も当たり前になっていますね。当然、疲れ目から肩こり、頭痛を経て体調不良になったりします。上手に取り組めば、体調管理と更なるエコも可能ですね。

2018年の社員旅行は沖縄でした。楽しかったですね。各地で環境保全活動やエコ活動は行われています。是非、いろいろな活動に参加してみたいと思います。

■編集後記■
今年もジャーナルの執筆ありがとうございました。環境だよりの作成にあたり、どの寄稿も興味深い内容で掲載するのに非常に悩みました。次年度も継続して発行しますのでご協力をお願いします。

